

代表質問 小松志士の会

宮西

健吉(みやにしけんきち)

議員

一括質問

2040年ビジョンの実現に向けて



動画で
チェック

◆令和6年度の予算編成について

Q 2040年ビジョンが発表されたが、実現には財源が必要である。そこで令和6年度の予算編成方針について問う。

A 時代の変化や市民ニーズに即した政策、制度に適正に改め、次代を担う世代や子供たちに過度な負担とならないよう、来年度の予算編成に取り組んでいく。

◆人口問題について

Q 少子化対策における本市の子育て支援策の現状は。

A 小中学校給食費の完全無償化、定住促進支援制度、おなかの赤ちゃん給付金、不妊・不育治療の支援、こども医療費、赤ちゃん紙おむつ定期便、奨学金制度等の7つをダントツに掲げ、子育てサポートをさらにPRしていく。また、駅周辺では、預かり保育サービスの実施に向けた準備を進めている。

◆今後の対策は。

Q 子育て支援の取組にさらに磨きをかけ、手厚いサポートを提供していく。また、令和6年度中に策定予定の市こども計画においても、より効果的な具体策を今後提案していく。

◆空き家活用対策について

Q 官民で促進できないか。

A 官民連携の取組として、平成29年度より、住宅金融支援機構と連携し、移住者向け

住宅ローンの借入金利を年0・25%引き下げる協定を締結した。令和2年度以降、対象の拡充と更なる負担軽減を図っている。また、令和3年度には、石川県宅地建物取引業協会と、企業誘致の促進のための土地や空き家等の情報提供に関して協定を締結している。

◆定住人口、移住人口対策について

Q 若い世帯のために宅地造成計画は。

A 宅地造成については、地元や民間主導で整備を進めていく状況が望ましいと考える。

Q 宅地を割安で提供できないか。

A 土地購入のみへの補助制度は現時点では考えていない。

◆さらなる本市の教育向上を目指すには

Q 教育長の思いは。

A 子供自身が興味、関心を持って学びに取り組んでいく子供主体の教育を推し進めるため、学校の教育活動、教師の資質、保護者の存在の3つが重要と考える。

◆稚松小学校、松陽中学校の基本構想は

Q 来年度は基本設計に入るのか。

A 来年度以降、実効性のある具体的な整備計画を進めていきたい。



◆都市計画道路、県道、その他の道路について

Q それぞれの道路の実施計画は。

A 次期都市計画道路の整備については、総合的な観点で選定を進め、対象路線を決定する予定。県管理の道路については、主要幹線道路の事業促進を県に要望している。市道については、市民の生活環境の改善や安全・安心につながる道路整備を進めていく。

◆食料安全保障の観点から農業問題について

Q 本市の農業従事者数の推移は。

A 石川県の状況報告書によると、2005年が4,678人、2020年には1,688人となっており、年々減少している。

Q 耕作放棄地の推移は。

A 耕作放棄地は43ヘクタールであり、農業者の管理が行き届かない農地が増えている。

Q 農地転用の推移は。

A 直近5年間に於ける転用面積は約49ヘクタールであり、平均すると1年当たり9・8ヘクタールが宅地や雑種地などに転用されている。

代表質問 自民党こまつ 川崎 順次(かわさきじゅんじ) 議員

一括質問

2040年ビジョン実現に向け挑戦



動画でチェック

◆2040年ビジョンの取組6つの都市像について

- Q** 何を一番に重点的に進めていくのか。
- A** 企業誘致、産業創生で仕事をつくり出すことが最も重要と考えている。
- Q** 粟津駅周辺の整備について、駅西口の整備は。
- A** 来年度から駅西広場整備に関わる用地取得に着手。
- Q** 駅東西連絡通路の整備は。
- A** 令和8年度から工事開始予定。
- Q** 東口ラウンドアバウトの整備は。
- A** 令和7年度から整備開始予定。
- Q** 粟津駅西口を拠点に公立小松大学、串工業団地、市民病院、小松空港と路線バスでつながることが重要でないか。
- A** 整備により様々な交通モードによる乗り入れが可能な計画となり、利便性が飛躍的に向上すると期待している。バス路線の新設等は乗務員不足等により大変厳しい状況。
- Q** 今後の粟津駅周辺整備のスケジュールは。
- A** 令和10年度末完成を目指す。
- ◆安宅エリアについて**
- Q** 小松空港から安宅の間までの連絡道路を、勸進帳花道通りとして整備できないか。

A 現道2路線の改修や安全対策を基本に考えている。

◆市川團十郎文の道場について

- Q** 東京で市長、円地元市議とお会いした時、團十郎文からぜひ安宅で道場を整備し、小松の子供たちを指導したいとのことであった。その後どのように話が進んでいるのか。
- A** 團十郎文のご縁を大切に、御本人の御意向をお伺いしながら丁寧に対応していきたい。

◆未来型図書館について

- Q** 具体的な立地場所が、公会堂が立地する一団の土地との方針が示された。今の場所ではホール機能を持つ施設が建てられず、公会堂は老朽化が著しい。未来型図書館と芦城公園を一体的に整備しては。
- A** 複合施設として芦城公園と一体となった整備を想定している。

◆小松駅からのアクセスについて

- Q** 小松駅から芦城公園までの回路整備をできないか。
- A** 町なかの地域資源を生かした回遊性創出等の方策について、市民と共に考え、新たな活気にぎわいの創出を目指していきたい。

◆告示後住宅の防音工事について

- Q** 平成6年12月21日以降に建てられた住宅も助成の対象に。
- A** 騒音区域の見直し完了前までに対象となる世帯の範囲を拡大するよう防衛省に働きかけていく。



Q 今回の国際情勢、小松基地の重要性はますます高まっている。共存共栄を図るためにも地元住民に対する施策のため、9条交付金を増額できないか。

A 障害防止事業や民生安定事業等と併せ防衛省に強く求めていく。

◆安宅新産業団地の状況について

- Q** 新たな産業団地の整備は。
- A** 候補地3か所について年度内に整備地区を決定したい。

◆学校体育館の空調整備について

- Q** 児童生徒の安全のためにも空調設備の整備を急ぐ必要があるのではないか。
- A** 関係省庁へ必要な要望を上げ、学びの環境整備を検討していく。

◆放課後児童クラブについて

- Q** 指導者確保のためにも市の支援を。
- A** 支援員確保に関しては十分な手当てがなされている。研修なども積極的に展開し、支援員の確保、雇用の継続に努めたい。
- Q** 学校ではなく地域独自の学童クラブの整備を。
- A** 国では学校施設を活用することとされており、体育館や図書館等で思い思いの活動できる学校が最も適していると捉えている。



木村 賢治(きむら けんじ)議員

一括質問

小中学校の不登校について



動画でチェック

◆有害鳥獣駆除(熊)について

Q 熊避け鈴の配布や、憩いの森の柵の設置状況は。

A 鈴は対象小学校へ配布済み。柵は設置完了し、以後の出没は無い状況。

Q クラウドファンディングを活用した熊の餌となる樹木の植樹は。

A 来年度も奥山1ヘクタール分、市民とともに植樹を計画している。

◆小中学校の不登校について

Q 不登校は全国で急増している。市の状況は。

A 全国と同様に増加しており、5年で約2倍に増えている。

Q 未然防止のための市の取組は。

A 不登校の増加については困った状況です。相談支援体制、安心できる環境づくりをこれからも推進していく。

Q 不登校児童生徒に対してオンライン授業を実施できないか。

A オンラインでの学習保障は行っていません。

◆介護保険事業について

Q 現在のいきいきシニア率(75歳以上の高齢者で要支援・要

介護認定を受けていない人の割合)は。令和7年までに目標の75%は達成できるか。

A 令和5年は72・8%と伸びている。次期計画にも引き続き評価指標の1つとして取り入れたい。

Q 市の在宅医療・介護の取組は。

A 職能団体と協力し、入退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取り支援の4つの場面に沿って、対策の検討を行っている。

Q はつらつシニアかんじん帳の活用、デジタル化の考えは。

A 高齢者のデジタル化の状況や課題等を踏まえながら、今後検討していきたい。

◆市のインフルエンザの状況

Q 市内の発生状況は。増減は。

A 例年に比べ早い時期から感染拡大が見られる。今後さらに流行拡大の可能性が高い。

Q 小中義務教育学校におけるインフルエンザの状況。

A 学年閉鎖8校、学級閉鎖10校、休校0校。

Q 保護者への通知方法は。

A 全保護者・児童生徒へ状況に応じた情報発信を行っていく。



吉柴 文悟(よしば ぶんご)議員

一括質問

今ある地域の課題を解決するために



動画でチェック

◆SNSによる市の活性化

Q 4月の公式LINEリニューアルにより、欲しい情報に合わせたジャンル設定ができるようになった。11月に苗代校下で不審者情報があった際には条件が揃わずLINE配信されなかったが、市内の不審者情報や交通事故に関するお知らせを共有する必要性を改めて感じた。そこで時代に応じた需要を満たすジャンルの見直しについてどのようにお考えか。

A 現在、小松市では市政情報をはじめ、感染症・健康情報、消費せいかつ情報、クマ出没情報、消防本部からのお知らせ、防災士、しみん救護員へのお知らせの6つのジャンルを設定しており、利用者には配信を希望するジャンルを選択していただいている。ジャンルの細分化などの変更については、重要な情報が埋もれないような配慮や利用者の再登録が必要となることから、慎重に判断していきたい。

◆市民生活向上・課題解決に役立てるオープンデータ

Q オープンデータは、誰もがグループの範囲内で、自由に複製、加工や頒布などができるデータである。例えば高齢者が多く近隣に商店のないエリアを割り出すことで、移動スーパや買物バスの必要性を説くことができる。地域の課題解決につなげられるようなデータ構築が今後の小松市に必要なが、どのような対応をされるのか。

A 現在、県では、学識経験者、法律専門家及び市町を構成員に、データガバナンスに向けた運営組織を立ち上げ、国のガイドラインや住民等の利用者意見を踏まえ、データ活用の客観性、妥当性を確保する仕組みとルールづくりを行っていくこととしている。行政が保有するデータを公開可能な形で市民や企業に開放することは、地域活性化の観点からも有効と考えており、オープンデータの推進に向けて、県とともに積極的に取り組んでまいりたい。



濱口 淳也(はまぐちじゅんや)議員

一括質問

PVと曳山会館と保育士



動画でチェック

Q PV(パブリックビューイング)PVは小松市となるような街づくりをしていく事はどうか?

A 都会では当たり前のことでも地方において、スポーツを見る、応援する事をイベント的な要素も含めて実施することにより、生活の中に潤いが出ると考えている。また、来年度完了予定の弁慶スタジアムのスコアボードが全面フルスクリーン化されることで、様々なスポーツのPVが開催可能となる。

◆ 曳山会館もたらす散歩ルートと観光ルート

Q 駅前からみよっさ、八日市アーケード、龍助町、西町、京町、芦城公園、丸の内町、小松城址、小馬出町、地子町、西町、龍助町、レング通りで約3.8キロの散歩ルートとなる。このルートの橋北の部分に曳山会館が出来ることで曳山8基を観ながら、市民の散歩ルートとなり、観光客の観光ルートにもなると思われるがどうか?

A お旅まつりの曳山行事は、小松市にとって、重要な、継承

していかねければならない大切な伝統文化であり、観光コンテンツである。一方で、曳山の組立、解体に携わる町民の高齢化、担い手の減少等、町の皆様の負担が非常に大きく、曳山を解体せずそのまま保管できる施設が必要と聞いている。組立、解体を伝統としてきた曳山行事の在り方も含め、まずは地元関係者と市でしっかりと協議を開始したい。

◆ 保育士不足

Q 子育てするならダントツ小松を継続する一つとして、知識とコミュニティ能力が必要な貴重な保育士を確保する必要があるが、市の取組は?

A 本市の処遇改善費の総額は、3年度から4年度にかけて月額9,000円程度増やす試算で、令和元年から4年まで1億4,500万円増額している。また、私立認定こども園の職員が住居を借り上げる際の費用の一部(月額53,000円を上限に市と法人がそれぞれ2分の1負担)を補助している。



深田 博智(ふかたひろとも)議員

一括質問

西侯キャンプ場条例の一部改正および特定地域づくり事業協同組合制度について



動画でチェック

◆ 西侯キャンプ場の通年化について

Q 通年化する目的は何か。

A 年々キャンプ人気が高まる中、新たに冬季におけるキャンプや屋外サウナなど、楽しみ方も多様化してきており、今回の条例改正については、これらの利用者のニーズに対応するためである。

Q 利用者ニーズに応えるための改修は。

A 利用者の声や指定管理者の意見交換等を基に、現在のキャンプ需要や今後の製品の仕様変化にも対応できるよう、汎用性、維持管理のコスト等も視野に入れ、適切な改修を今後検討していきたいと考えている。



西侯キャンプ場テントサウナ

◆ 特定地域づくり事業協同組合制度について

Q どのような制度なのか。

A 農山漁村をはじめとする人口急減地域においては、季節的な仕事はあるものの年間を通じた仕事が少なく、安定した給与や雇用環境が確保されていない。地域全体で複数の事業者の仕事を組み合わせることで年間を通じた仕事、マルチワークを創出し、地域事業者が共同して職員を通年で雇用した上で、それぞれの地域事業者に派遣するための仕組み、特定地域づくり事業協同組合制度を創設し、地域の担い手の確保の取組を推進しようとする制度である。

Q 小松市内における対象地域はどこか。

A 過疎法で規定する過疎地域の要件があり、市内で同程度の人口減少が生じている松東校下、また那谷校下の両地域を対象に制度導入について検討していきたいと考えている。